

患者さんへ

【慢性閉塞性肺疾患における可溶性 α -Klothoの測定、及びその臨床的意義の検討】

に関する研究について

【研究概要及び利用目的】

本邦の慢性閉塞性肺疾患（COPD）において可溶性 α -Klothoを測定することにより、慢性炎症を本態とし肺の疾患にとどまらず全身性併存症を及ぼす COPD において α -Klothoの生理的意義を明らかにすることを目的としています。 α -Klothoとは、老化に関する蛋白質として注目を集めており、動脈硬化の進行、神経退化、サルコペニアや肺気腫、骨粗鬆症、皮膚や性腺の委縮・不妊など、ヒトの老化で認められる兆候と類似した表現型を示しました。そこで、可溶性 α -Klothoの低下が COPD の患者の末梢筋に及ぼす影響について研究することとなりました。

【研究期間】 2016年12月31日まで

【研究機関名】 大阪市立大学大学院医学研究科 呼吸器内科学

【取り扱う試料及びデータ】

- ・血液：以前に各種研究に用いることをご同意頂いていた患者さんから、採取し保存していた血液を用いて測定します。
- ・データ：患者さんのカルテから、性別、年齢、体重、喫煙歴と、閉塞性肺疾患の患者さんにおいては、運動負荷試験、呼吸機能検査について調べさせていただきます。